

平成25年行政事業レビューシート

(厚生労働省)

<b>事業名</b>	管理栄養士専門分野別人材育成事業費		<b>担当部局庁</b>	健康局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成18年度		<b>担当課室</b>	がん対策・健康増進課栄養指導室		栄養指導室長 河野 美穂		
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>政策・施策名</b>	I-10-2 生活習慣の改善等により健康寿命の延伸等を図るとともに、がんによる死亡者の減少を図ること				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>	-		<b>関係する計画、通知等</b>	平成25年度管理栄養士専門分野別人材育成事業費の実施要綱について				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	複雑で解決困難な栄養の問題を有する個人や集団等の対象特性に応じた栄養管理の実施および食事指導の拠点となる栄養ケア・ステーションの機能強化に向け、高度な専門性を発揮できる管理栄養士を育成することを目的とし、各専門領域におけるリーダーを対象とした専門研修プログラムを作成する。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>	社団法人日本栄養士会に事業の実施を委託する。 治療効果をあげるために必要とされる高度な専門性を有する管理栄養士を育成するにあたり、当該年度はがん専門管理栄養士(仮称)のための専門研修プログラムを作成する。 (1)各専門領域の管理栄養士に求められるニーズや課題の分析 対象特性に応じた栄養管理の実施および食事指導の拠点となる栄養ケア・ステーションの機能強化を図るため、各専門領域の管理栄養士に必要とされる高度な知識や技術について、専門領域の管理栄養士や他職種からのヒアリング等を通して、分析する。 (2)研修プログラム試案の開発 上記の分析結果から明らかとなったニーズや課題を踏まえ、各専門領域におけるリーダーを対象とした研修プログラム試案を開発する。 (3)モデル研修の実施による研修プログラムの作成 モデル研修の実施を通して、研修プログラム試案の課題を整理し、研修プログラム試案の修正、改善を行い、各専門領域におけるリーダーを対象とした研修プログラムを作成する。							
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算の状況	当初予算	21	19	21	21	21	
		補正予算						
		繰越し等						
	計		21	19	21	21	21	
	執行額		15	19	21			
執行率(%)		71.4	100.0	99.9				
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)
	専門領域におけるリーダー候補者数	成果実績	名	-	-	-	50	
		達成度	%	-	-	-		
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	専門研修プログラム	活動実績		-	-	-	1	
		(当初見込み)		(-)	(-)	(-)	(1)	
<b>単位当たりコスト</b>	-(円/ )			算出根拠	当該事業は、栄養ケア・ステーションの機能強化、治療効果をあげるために必要とされる高度な専門性を有する管理栄養士を育成するための専門研修プログラムの作成を目的にしており、定量化になじまない。			
平成25・26年度予算内訳	費目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	衛生関係指導者養成等委託費		21	21				
	計		21	21				

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	栄養指導・食生活支援を担う人材の育成について、複雑で解決困難な栄養の問題を持つ対象者に対して水準の高い栄養ケアを提供することができる管理栄養士の育成は広く国民のニーズがあると考えられる。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	高度な専門性を発揮できる管理栄養士の育成、地域における栄養支援活動を均てん化するため、国が実施すべき事業である。		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○	栄養指導・食生活支援を担う人材の育成について、複雑で解決困難な栄養の問題を持つ対象者に対して水準の高い栄養ケアを提供することができる管理栄養士の育成は優先度の高い事業である。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	支出先は、高い専門的技術を有する職能団体であり、選定は妥当である。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	各専門分野別リーダー向け研修プログラムは、水準の高い栄養ケアを効率的よく提供する管理栄養士の人材育成に活用できることから、負担関係は妥当であるといえる。		
	単位当たりコストの水準は妥当か。		—			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	水準の高い栄養ケアを効率よく提供する管理栄養士の人材育成は、事業の目的に必要な費目・使途となっている。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	事業は高い専門的技術を有する職能団体によって行われるものであり、より効果的な方法で実施できる。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		—			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	全国に整備された栄養ケアステーションは、地域における栄養支援に活用されている。		
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	24年度は、全栄養ケアステーション(47箇所)がすべて活動しており、適切に執行された。今後、栄養ケアステーションの機能強化を図るとともに、さらに効率的な執行を図る必要がある。 目的・予算の状況、資金の流れ、費目・使途、活動実績等について適切であった。					
外部有識者の所見						
引き続き適正執行に努めること。(長崎、井出)						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	栄養ケア・ステーションの機能強化を図るため、専門性の高い管理栄養士を養成する事業であるが、事業の必要性及び執行の観点からも妥当であり、引き続き効率的な執行となるよう努めるべき。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	—					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	313	平成23年	284	平成24年	244

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省  
20.6百万円

〔 事業目標・計画、事業の進捗状況、  
事業成果の確認等 〕



【委託】

A. (社)日本栄養士会  
20.6百万円

〔 ○食事指導の拠点となる栄養ケア・ステーションの機能強化および  
対象特性に応じた栄養管理の実施並びに管理栄養士スキルアップ  
研修等に関する事業 〕

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を  
しているかについて補足する)  
(単位: 百万円)

